

果敢に挑むも力及ばず

2年ぶりに全国のピッチに戻った遠野高校サッカー部。堅守速攻を武器に、強豪・神戸弘陵高校に挑むも、全国の高い壁を超えることはできなかった。

審判
雅士 川雅
井勇気
電井 環



写真/初戦突破をめぐり闘志を燃やす遠野高校イレブン 【写真提供】公益財団法人日本サッカー協会



5_相手選手にプレッシャーをかける主将の高橋(左)とMF赤坂
6_ドリブル突破を仕掛けるFW千田 7_相手シュートをパンチングで防ぐGK山下 8_最後まで攻めの姿勢を貫いたFW平 9_試合終了後、悔しさをにじませる選手 【写真提供】遠野高校



Game Result

試合結果

12月31日
ゼットオーオリブスタジアム(千葉)

遠野 0 $\frac{0}{0}$ - $\frac{3}{2}$ 5 神戸弘陵



遠野イレブンを見守った選手と保護者

つなぎ、遠野に今試合最大のチャンスが訪れる。平は相手陣地深くまで攻め込んだが、DFに阻まれ惜しくも得点ならず。その後も神戸弘陵ゴールを割れず、試合終了のホイッスルが鳴った。

コロナ禍、集大成となる大会の中止や代替開催など、夢を閉ざされた高校生もいる。応援してくれる市民や同じ学び舎で過ごす仲間たちへ。さまざまな思いを胸に、遠高イレブンは最後まで全力を尽くすも悔しさを残し、今大会は幕を閉じた。今年、全国選手権は節目の100回大会を迎える。遠野高校は創立120周年を迎える年であり、サッカー部への期待も高まっている。遠高イレブンには、今大会の悔しさも、次回大会に寄せられる期待やプレッシャーも力に変え、夢への道を切り開いてほしい。

第99回全国高等学校サッカー選手権大会は昨年12月31日から1月11日、埼玉スタジアム2002などで開催され、全国48校が熱戦を繰り広げた。遠野は31日、千葉県のゼットオーオリブスタジアムで兵庫県代表の神戸弘陵学園と対戦。前回大会ベスト16の強豪相手に果敢に立ち向かうも力及ばず0対5。初戦で涙を飲んだ。

試合開始早々、神戸弘陵が遠野ゴールをこじ開けた。相手FWが遠野DF陣のわずかな隙間をすり抜けゴール前に駆け込むと、そこに絶妙なパスが通り先制点を許す。遠野は、DF山蔭一夢(2年)が相手シュートをゴールライン寸前で体を張って死守するなど好守も光ったが、30分に追加点を奪われ0対2。さらにアデイシヨナルタイム、コーナーキックから追加点を奪われ、3点のリードを許して前半を折り返した。

後半戦、流れをつかみたい遠野は、後半からピッチに立ったDF菊池航大(3年)のロングスローなどを起点に反撃を仕掛ける。79分には、県大会以降磨いてきたパスワークでFW平賢心までボールを

インタビュー INTERVIEW



前主将・DF
高橋 和志 君
(3年、和賀東中出身)

皆さんの応援に感謝

全国出場は日頃から応援してくれた皆さんのおかげ。緊張もあり自分たちのプレーができず、勝って恩返しできなかったのを残念に思う。後輩たちは連携のとれた良いチームなので何も心配はしていない。今回の経験をもとに全力で挑戦してほしい。



現主将・MF
菊池 翔瑛 君
(2年、遠野中出身)

県3冠果たし再び全国へ

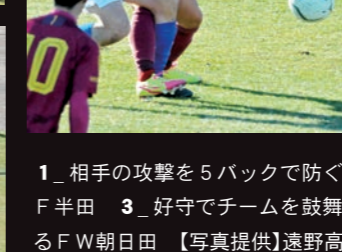
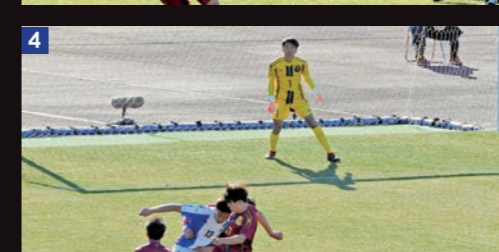
相手の個々の力や戦術のレベルが高く、県でできたことが通用しなかった。全国での経験を新チームに浸透させて、県内トップに恥じないプレーと行動で目指すは県3冠。先輩や地域の人々の思いを力に変えて、全国で自分たちの力を発揮したい。



DF
山蔭 一夢 君
(2年、遠野中出身)

堅守極めて全国で勝利を

全国レベルのFWとの対戦は、技術や駆け引きで学ぶことが多かった。DFとして1年間、前主将・和志さんの背中を見て成長してきたが、次は自分がチームを引っ張らなければいけない。堅守を極めて、できなかった全国での勝利を目指したい。



1_相手の攻撃を5バックで防ぐ、堅守速攻を狙う布陣 2_相手FWと激しく競り合うDF半田 3_好守でチームを鼓舞したDF鈴木 4_相手DFに囲まれ厳しいマークを受けるFW朝日田 【写真提供】遠野高校